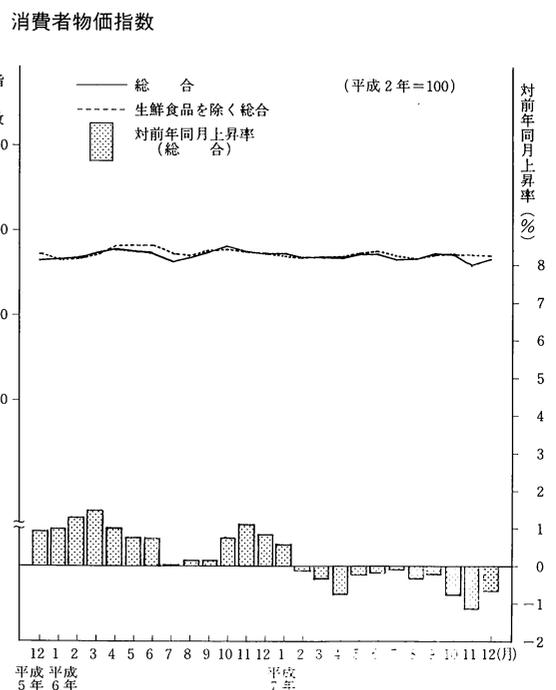
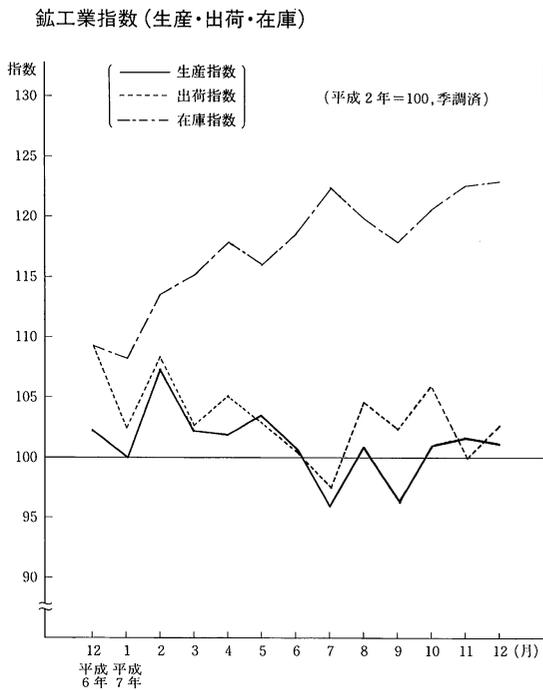
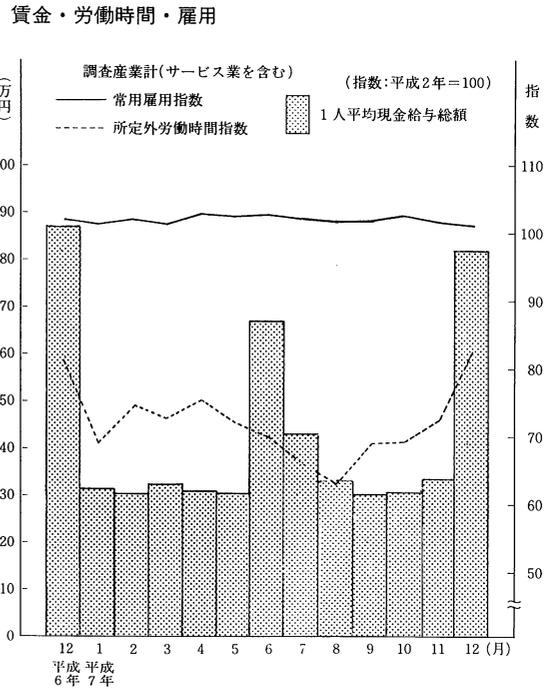
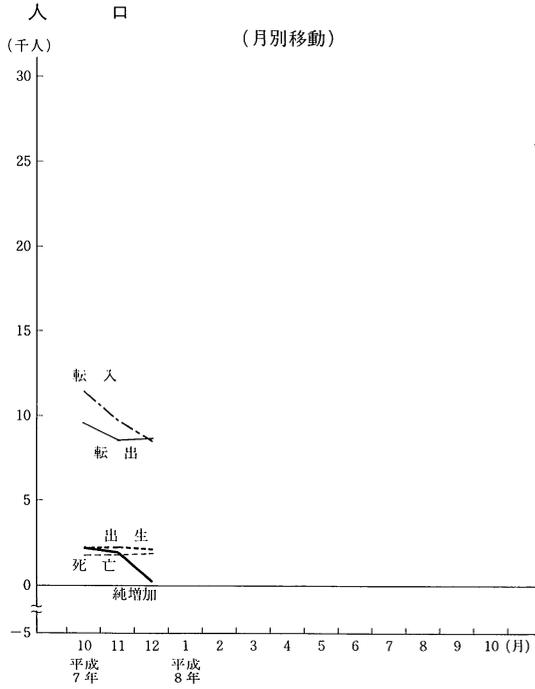


今月の主な動き



主な動きのあらまし…………… 企画部統計課

■人口(1月1日)

本県の人口は、12月中に200人増加し、1月1日現在で、2,959,931人(男1,478,696人、女1,481,235人)となった。

内訳は、自然動態で297人(出生2,208人、死亡1,911人)増加し、社会動態で97人(転入8,683人、転出8,780人)減少した。前年同月と比べると5,389人(0.2%)の増加である。

る。

市町村別では、増加が8市36町村、減少が12市29町村である。

世帯数についても12月中に、195世帯増加し925,556世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(11月)

1. 平均賃金の推移

11月の現金給与総額は、調査産業計で335,202円、対前年同月比4.4%増、このうち、きまって支給する給与は302,792円、対前年同月比0.2%増であった。また、このうち、所定内給与は274,814円、対前年同月比もちあいであり、超過労働給与は27,978円、対前年同月比2.0%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比6.0%増であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

11月の総実労働時間は、調査産業計で162.7時間、対前年同月比1.3%減であった。このうち、所定内労働時間は148.6時間、対前年同月比1.3%減、所定外労働時間は、14.1時間、対前年同月比0.7%減であった。

3. 雇用の動き

11月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比1.2%減であった。

■賃金・労働時間・雇用(12月)

1. 平均賃金の推移

12月の現金給与総額は、調査産業計で821,860円、対前年同月比5.7%減、このうち、きまって支給する給与は305,132円、対前年同月比もちあいであった。また、このうち、所定内給与は275,232円、対前年同月比0.3%減であり、超過労働給与は29,900円、対前年同月比3.3%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比4.5%減であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

12月の総実労働時間は、調査産業計で165.3時間、対前年同月比0.5%増であった。このうち、所定内労働時間は149.4時間、対前年同月比0.5%増、所定外労働時間は、15.9時間、対前年同月比もちあいであった。

3. 雇用の動き

12月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比1.2%減であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(12月)

本県における平成7年12月の“鉱工業指数”(平成2年=100)は、季節調整済指数で、生産が101.3、出荷が102.6、在庫が122.8で、前月比は、生産が0.4%の低下、出荷が2.7%の上昇、在庫が0.3%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が1.1%の低下、出荷が6.4%の低下、在庫が12.3%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、鉱業、輸送機械工業、プラスチック製品工業等が上昇し、石油・石炭製品工業、食料品・たばこ工業、精密機械工業等が低下した。出荷では、輸送機械工業、鉄鋼業、プラスチック製品工業等

が上昇し、石油・石炭製品工業、精密機械工業、金属製品工業等が低下した。在庫では、石油・石炭製品工業、鉱業、化学工業等が上昇し、輸送機械工業、精密機械工業、電気機械工業等が低下した。

財別にみると、生産では、資本財、鉱工業用生産財等が上昇し、その他用生産財、非耐久消費財が低下した。出荷では、鉱工業用生産財、耐久消費財等が上昇し、その他用生産財、非耐久消費財が低下した。在庫では、その他用生産財、非耐久消費財等が上昇し、耐久消費財、建設財が低下した。

※今月は「消費者物価指数(12月)」を4Pに掲載します。

● 今月の主な動き ● 今月の主な動き ●

主な動きのあらまし つづき

■ 消費者物価指数(12月)

平成7年12月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で106.8(平成2年=100)となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比0.7%の下落となった。

今月の上がった主な項目……果物7.4%、油脂・調味料2.5%、野菜・海草2.4%

今月の下がった主な項目……シャツ・下着類1.2%、調理食品1.1%

生鮮食品を除く総合は107.4となり、前月比0.1%の下落、前年同月比0.3%の下落であった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同			対前月	対前年同
総 合	106.8	0.2	△0.7	保健医療	102.9	△0.1	0.3
食 料	104.2	0.9	△1.8	交通通信	98.7	△0.3	△0.3
住 居	116.9	0.0	1.0	教 育	116.8	0.0	2.5
光熱・水道	102.5	0.0	0.0	教養娯楽	108.0	0.1	△1.5
家具・家事用品	95.9	0.1	△3.2	諸 雑 費	104.6	0.1	△0.1
被服及び履物	114.7	△0.6	△0.4	生鮮食品を除く総合	107.4	△0.1	△0.3

◇ 統計の窓 ◇

第37回茨城県統計大会 盛大に開催

小春日和に恵まれた2月7日(水)、第37回茨城県統計大会が水戸市の県民文化センター大ホールにおいて、1,200名を越す統計関係者の参加を得て盛大に開催されました。

本大会は統計関係者の一層の自覚と認識とを深め、統計事業の発展とともに県民に対する統計思想の普及を図ることを目的として、昭和34年以来毎年開催されており今回で37回目となります。

大会は^{おおもりもとひろ}大森基弘県統計課長の開会のことばで始まり、^{はしもとまさる}橋本昌弘知事(県統計協会総裁)のあいさつ



橋本知事あいさつ



〈統計功労者表彰〉

橋本昌知事(左)

久米良作 牛堀町統計調査員



〈統計グラフコンクール入賞者表彰〉

小川栄次郎県議会議長(左)

笠間市立稲田小5年 青木明香さん



根本栄一県企画部長(左)

下館市立南中2年 中澤絵美子さん



〈決意表明〉

川田厚子 水戸市統計調査員



〈お礼のことば〉

旭村立旭南小6年 柴田紀子さん



〈大会宣言朗読〉

谷津健 五霞村企画課長

が述べられ、表彰式に移りました。

まず統計調査に長年従事され功績の顕著な方に贈られる県知事表彰，統計に功劳のあった方に贈られる県統計協会総裁表彰，各省庁大臣の表彰の伝達がなされ，続いて第46回県統計グラフコンクール入賞者，入賞校，グラフ指導者の皆さんの表彰が，第43回統計グラフ全国コンクールの表彰伝達と併せて行われました。

次いで来賓の山岸親雄総務庁統計局統計基準部長，小川栄次郎県議会議長，清水昇ひたちなか市長（市町村長代表）からお祝いと統計功劳者の皆さんにねぎらいの言葉が贈られ，受賞者を代表して，川田厚子水戸市統計調査員から「決意表明」，旭村立旭南小学校6年柴田紀子さんから「お礼のことば」が述べられました。

谷津健五霞村企画課長の朗読による「大会宣言」が満場の拍手で採択され，清水博石下町商工観光課長の閉会のことばで終了しました。

本場磯節保存会の皆さんによるアトラクションは地域の芸能を知るよい機会となりました。

大会の開催にあたりご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（統計課・普及指導グループ）

宣 言

21世紀を目前にして、私達を取り巻く社会・経済情勢は、国際化、高度情報化、高齢化の進展、価値観の多様化等が進むなど大きな変化が生じており、新たな統計行政の対応が求められている。

このような変化の激しい時代にあって、各種施策を推進する上で、統計資料に基づいた正確な現状把握と的確な将来予測が必要不可欠であり、統計の果たす役割は一層重要性を増してきている。

ここに第37回茨城県統計大会を開催するに当たり、我々統計関係者は、その使命と責務の重要性を深く認識し、県民の理解と協力のもとに、時代の要請に対応する統計の充実、発展を期して、次のとおり決議し宣言する。

- 1 ニーズに即した統計の作成と利用しやすい形での調査結果の提供を図る。
- 2 既存資料の活用と調査方法の合理化を進め、報告者の負担軽減を図る。
- 3 調査結果の早期公表と統計情報の利活用の促進を図る。

平成8年2月7日

第37回茨城県統計大会